

第 211 期 株主通信

2018年4月1日→2019年3月31日

株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループの第211期連結会計年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の概況につきまして、ご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、緩やかながらも長く回復基調であった景気が、米中間の貿易摩擦激化やそれに伴う中国景気の減速などにより、後退局面に入るおそれも懸念されはじめました。

このような環境下において当社グループは、最終年度を迎えた中期経営計画「Advance '18」の基本方針である「収益拡大に向けた事業変革」のもと、将来市場を見据えたマーケット志向型事業への転換を進め、高付加価値かつ高収益ビジネスの追求、技術革新と新規事業創出などに注力しました。

当連結会計年度の業績につきましては、売上高は1,570億円（前年同期比2.9%減）、営業利益は56億4千万円（同18.0%減）、経常利益は61億9千万円（同15.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は46億4千万円（同4.5%減）となりました。

今後のわが国の経済情勢につきましては、米中間の貿易摩擦やそれに伴う中国景気の減速、10月に予定されている消費税率上げなどがあり、景気の先行き不透明感は一層増すものと思われます。

このような経営環境のもと、当社グループは、2030年の目指すべき姿を「イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ」とする「長期ビジョン2030」を策定し、そのファーストステージとなる新中期経営計画「Creation '21」を、2019年4月よりスタートしました。

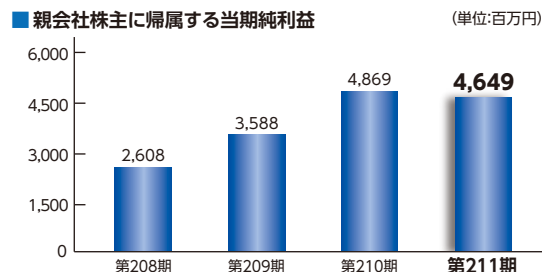
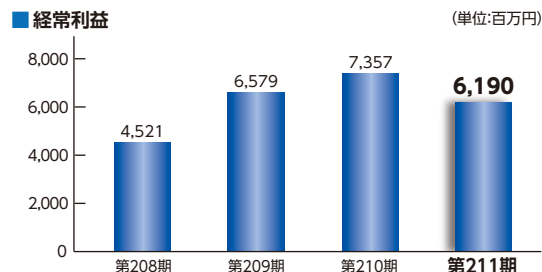
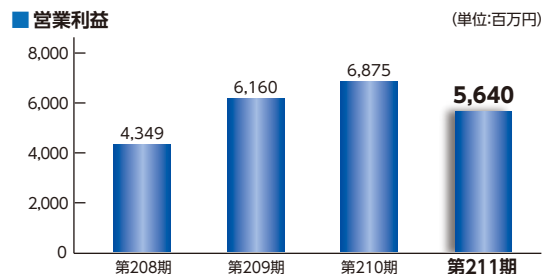
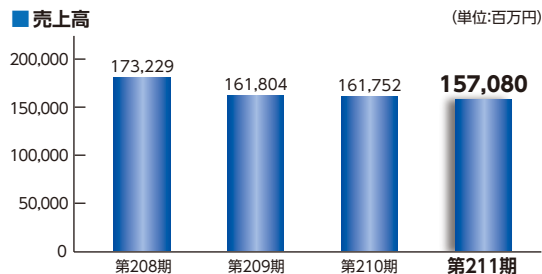
「Creation '21」では、「イノベーションによる収益拡大と企業価値の向上」を基本方針とし、前中期経営計画「Advance '18」で実施した高付加価値・高収益ビジネスの追求や、マーケット志向型事業への転換、新規事業創出に引き続き取り組むとともに、社会への貢献という視点も加えて、ビジネスモデルの変革とイノベーション創出により、高収益事業体制の確立に努めてまいります。

また、引き続きコーポレートガバナンス体制の充実を図るとともに、企業倫理や法令遵守の徹底、SDGs（持続可能な開発目標）への取組みなどCSR活動を推進し、持続的な成長および中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

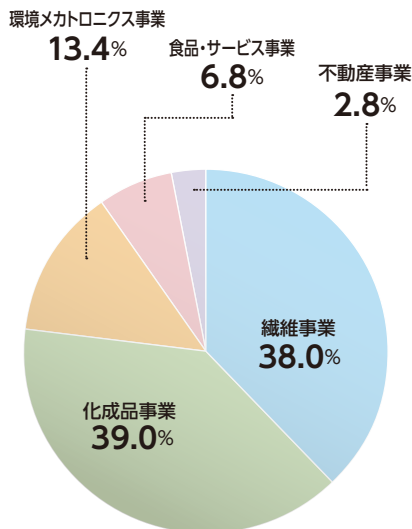
2019年6月

取締役社長 藤田 晴哉



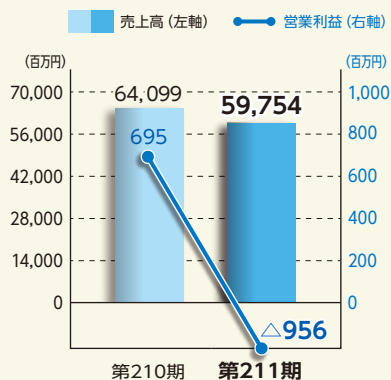
当社グループの事業概況

事業セグメント別売上高構成比率



総額 1,570億円

繊維事業



ユニフォーム分野は、底堅い公共投資を背景とした需要の安定により、増収となりました。

カジュアル分野は国内衣料品販売の低迷により、原糸分野は販売不振により、それぞれ減収となりました。

海外子会社におきましては、東南アジアやブラジルが低調で、減収となりました。

この結果、売上高は597億円(前年同期比6.8%減)、営業損失は9億5千万円(前年同期は営業利益6億9千万円)となりました。

繊維事業

- 綿、合繊、その他素材の繊維製品(糸、織物、編物および二次製品)の製造・販売
- 綿、合繊織編物の染色整理加工

化成品事業



自動車分野は、中国の子会社は低調に推移しましたが、国内の内装材向け軟質ウレタンフォームやフィルター向け不織布などが堅調で、増収となりました。機能樹脂分野は、文具向けおよび自動車向けフィルムに加え、半導体製造向け樹脂加工品も堅調で、増収となりました。

住宅建材分野は、外装用化粧材や繊維補強資材などが低調で、減収となりました。

この結果、売上高は611億円(前年同期比1.6%減)、営業利益は19億5千万円(同17.3%減)となりました。

化成品事業

- ポリウレタンフォーム、合成木材、無機建材、機能性フィルム、精密ろ過関連製品、高性能エンブラ製品、不織布および補強ネットの製造・加工・販売

環境メカトロニクス事業



エレクトロニクス分野は、基板検査装置などが順調で、増収となりました。また、子会社でも半導体洗浄関連装置が順調で、増収となりました。

エンジニアリング分野は、バイオマス発電プラントの大型案件が減少した影響などにより、大幅な減収となりました。

バイオメディカル分野は、核酸自動分離装置や細胞製品が堅調に推移し、増収となりました。

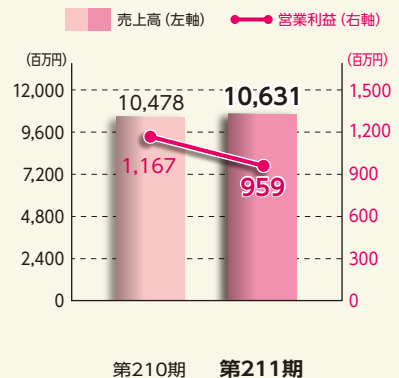
工作機械分野は、国内販売が好調に推移し、また海外も北米向けが順調で、増収となりました。

この結果、売上高は210億円(前年同期比2.1%増)、営業利益は22億4千万円(同88.6%増)となりました。

環境メカトロニクス事業

- エレクトロニクス関連製品の製造・販売・保守
- 環境・エネルギー関連の各種プラント等の設計・製作・施工・販売、バイオマス発電事業
- バイオ関連製品の製造・販売
- 工作機械等の製造・販売

食品・サービス事業



食品分野は、即席めん具材およびスープ市場向け製品が好調に推移し、増収となりました。

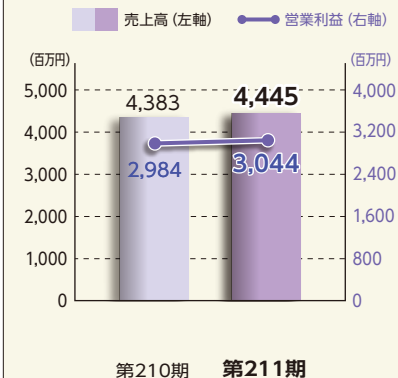
ホテル分野は、リニューアル工事に伴う一部施設の休止や「平成30年7月豪雨」の影響などにより、減収となりました。

この結果、売上高は106億円(前年同期比1.5%増)、営業利益は9億5千万円(同17.8%減)となりました。

食品・サービス事業

- フリーズドライ食品の製造・販売
- ホテル、自動車教習所等の経営ほか

不動産事業



賃貸事業の推進に注力した結果、売上高は44億円(前年同期比1.4%増)、営業利益は30億4千万円(同2.0%増)となりました。

不動産事業

- 不動産の賃貸

ホームページのご案内

>>> <https://www.kurabo.co.jp>

当社ホームページでは、会社案内やニュースリリースのほか、IR情報をお届けするため、「株主・投資家情報」のサイトを開設しています。

当社の開示資料を閲覧できる「IR資料室」、IR活動の日程をまとめた「IRカレンダー」など、株主の皆様のお役に立つ情報を提供しています。



連結財務諸表 (要旨)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)	科目	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	85,005	82,156	流動負債	51,599	51,423
固定資産	98,349	94,195	固定負債	31,314	28,958
有形固定資産	50,869	52,128	負債合計	82,914	80,381
無形固定資産	647	985	純資産の部		
投資その他の資産	46,832	41,081	株主資本	89,241	90,107
資産合計	183,355	176,352	その他の包括利益累計額	7,654	2,391
			非支配株主持分	3,545	3,470
			純資産合計	100,440	95,970
			負債純資産合計	183,355	176,352

(注)「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度の連結貸借対照表については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2017年4月1日～ 2018年3月31日)	当連結会計年度 (2018年4月1日～ 2019年3月31日)
売上高	161,752	157,080
売上原価	134,003	130,076
売上総利益	27,748	27,003
販売費及び一般管理費	20,873	21,363
営業利益	6,875	5,640
営業外収益	1,351	1,546
営業外費用	869	995
経常利益	7,357	6,190
特別利益	216	653
特別損失	264	20
税金等調整前当期純利益	7,309	6,823
法人税等	2,292	2,115
当期純利益	5,016	4,707
非支配株主に帰属する当期純利益	147	57
親会社株主に帰属する当期純利益	4,869	4,649

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2017年4月1日～ 2018年3月31日)	当連結会計年度 (2018年4月1日～ 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,127	9,225
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,689	△5,708
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,543	△4,710
現金及び現金同等物に係る換算差額	42	△164
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,936	△1,358
現金及び現金同等物の期首残高	16,486	20,423
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	104
現金及び現金同等物の期末残高	20,423	19,169

当社の株式に関する事項 (2019年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 97,701千株
- 発行済株式の総数 23,156千株
- 株主数 14,354名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三井住友銀行	1,058	4.92
株式会社みずほ銀行	1,058	4.92
日本生命保険相互会社	920	4.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	754	3.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	730	3.39
株式会社中国銀行	726	3.38
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	615	2.86
GOVERNMENT OF NORWAY	483	2.25
三井住友信託銀行株式会社	412	1.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	369	1.71

(注) ①当社は、自己株式1,663千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 ②持株比率は自己株式を控除して計算しております。

当社グループの概要 (2019年3月31日現在)

当社

- 創立 1888年3月9日
- 本店 岡山県倉敷市本町7番1号
- 主要な事業所

区分	名称	所在地	
営業所 および 研究所	大阪本社	大阪市中央区	
	東京支社	東京都中央区	
	技術研究所	大阪府寝屋川市	
工場	繊維	丸亀工場	香川県丸亀市
		安城工場	愛知県安城市
		徳島工場	徳島県阿南市
	化成品	寝屋川工場	大阪府寝屋川市
		裾野工場	静岡県裾野市
		群馬工場	群馬県伊勢崎市
		鶴方工場	岡山県浅口市
三重工場	三重県津市		
熊本事業所	熊本県菊池市		

(注) 2018年4月1日をもって熊本事業所(旧称「熊本開発センター」)を主要な事業所としました。

当社グループの従業員の状況

従業員数(前連結会計年度末比増減)(人) 4,531(△60)

(注) 従業員数は就業人員であり、上記のほか、臨時社員・パートタイマー1,110人がおります。

当社の重要な子会社の状況

区分	会社名
国内	倉敷機械(株)
	日本ジフィー食品(株)
	(株)クラボウインターナショナル
	倉敷繊維加工(株)
	東名化成(株)
	シーダム(株)
海外	(株)倉敷アイビースクエア
	クラシキ・ド・ブラジル・テキスタイル(有)
	タイ・クラボウ(株)
	(株)クラボウ・マヌガル・テキスタイル
	広州倉敷化工製品有限公司
広州倉福塑料有限公司	

(注) 上記記載の重要な子会社12社を含め、当連結会計年度の連結子会社は26社、持分法適用会社は2社であります。

当社の取締役 (2019年6月27日現在)

代表取締役 取締役社長	藤田 晴哉	取締役 執行役員	川野 憲志
代表取締役 常務執行役員	北 畠 篤	取締役 常勤監査等委員	岡田 治
代表取締役 常務執行役員	馬場 紀生	社外取締役 監査等委員	茂木 鉄平
取締役 執行役員	本田 勝英	社外取締役 監査等委員	新川 大祐
取締役 執行役員	稲岡 進	社外取締役 監査等委員	西村 元秀
取締役 執行役員	藤井 裕詞	社外取締役 監査等委員	谷澤 実佐子

(注) 社外取締役(監査等委員)茂木鉄平、新川大祐、西村元秀および谷澤実佐子の4氏は、いずれも当社が定める「社外取締役の独立性に関する基準」の要件を満たしており、また東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員であります。

当社の執行役員 (2019年6月27日現在)

専務執行役員	佐野 高司	執行役員	平田 政弘
常務執行役員	八木 克真	執行役員	中川 眞豪
常務執行役員	西澤 厚彦	執行役員	松井 一雄
執行役員	中村 潔	執行役員	西垣 伸二
執行役員	相徳 朗人		

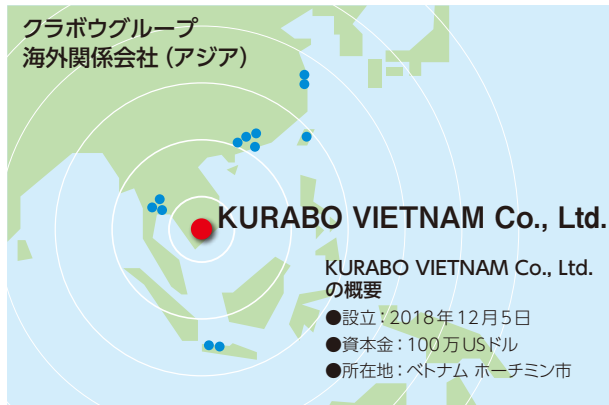
繊維事業部

ベトナムに販売会社を設立

繊維事業部は、これまでにブラジル、タイ、インドネシア、中国に関係会社を設立、運営するなどグローバルに事業を展開してまいりましたが、ASEAN地域での繊維事業のさらなる強化・拡充を図るため、昨年12月にベトナムホーチミン市に原糸・生地販売の関係会社「KURABO VIETNAM Co., Ltd.」を設立しました。

ベトナムには、製造業を中心とした多くの繊維関連企業が進出しておりますが、品質の安定した高付加価値の原糸や生地のベトナム国内での生産量は少なく、その多くを輸入品に頼っているのが現状です。このような状況をビジネスチャンスと捉え、当社がこれまで培ってきた繊維製造技術を活用してベトナム国内の協力工場と連携し、「KURABO VIETNAM Co., Ltd.」を通じて高付加価値

の原糸や生地の供給を行うとともに、今後ますます発展が見込まれるベトナムにおいて、当社および当社繊維事業グループ各社との連携を深めながら、新規ビジネスの探索も行ってまいります。



化成品事業部

「TELパートナーズデイ」で「Excellent Partner Award」を受賞

化成品事業部は、売上高世界第3位の半導体製造装置メーカー 東京エレクトロン(株) (以下、「TEL」)の「Excellent Partner Award」を昨年12月に受賞しました。

今回、当社として初めての受賞となる「Excellent Partner Award」は、TELの事業活動への貢献度が高かった企業に贈られるもので、毎年、厳選された主力取引先のみが招待され、今後の経営計画や事業方針などを発信・共有する「TELパートナーズデイ」の会場で表彰式が行われました。

今回の受賞にあたっては、化成品事業部が半導体製造装置などに使用される耐薬品性に優れた高機能樹脂加工品などの強固なサプライチェーンを築いてきたことに加え、最先端の商品開発と分析・洗浄設備などの拡充による生産能力の強化を図り、品質向上と安定供給に貢献したことが評価されました。今後は、開発力や品質力のさらなる



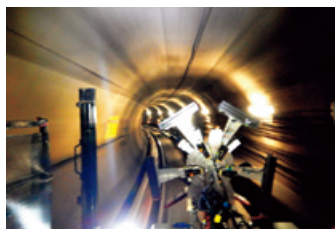
の向上を目指し、事業の拡大に努めてまいります。

● 鉄道トンネル内壁検査システムを ● 開発・販売開始

環境メカトロニクス事業部は、鉄道トンネル内壁の損傷状態を簡易、かつ、高精度に診断できる「鉄道トンネル検査システム“TM-270”」を開発し、昨年12月より販売を開始しました。

高度経済成長期に整備された日本全国の社会インフラが老朽化し、国内の鉄道トンネルの60%以上が建設後50年以上経過するなど、その安全性の維持が社会課題となっています。また、検査においても、作業員の徒歩での撮影や目視点検を行うため膨大な時間を要しており、作業効率の向上が求められています。

当社の高速画像処理技術を生かして開発されたこのシステムは、地下鉄などの駅のプラットフォームから線路に持ち



鉄道トンネル検査でのTM-270使用イメージ



TM-270の計測スキャナユニット

込み、作業員1～2名で簡単に組み立てられます。台車に積載し線路上を走行するだけでトンネル全周を連続撮影でき、撮影時間が従来の10分の1に短縮されるため、作業効率を飛躍的に向上させることが可能です。また、幅0.1mmの微細なひび割れまで検出し、損傷度に応じて色分け表示されるため、損傷状態を簡単に把握できます。地下鉄や鉄道トンネル内壁の老朽化対策向けの製品として国内外での販売拡大を進めてまいります。

● 核酸分離装置のラインアップ拡充

環境メカトロニクス事業部は、遺伝子解析などに使用される核酸分離装置“QuickGene”(クイックジーン)シリーズの新製品“QuickGene-Auto12S、Auto24S”の2機種の販売を、昨年10月から開始しました。



QuickGene-Auto12S

近年、医療分野における遺伝子治療や出生前診断、食品分野における異物混入検査や品種鑑定など様々な分野において、遺伝子の解析や検査のニーズが広がっており、対象となるサンプルも種類が増えています。これらを担う施設で

は、多様なサンプルへの対応に加え、作業の効率化やコスト削減、結果の再現性向上、さらにはウイルス感染防止のために、自動化のニーズも高まっています。

当社は、これらのニーズに対応するため、核酸分離装置“QuickGene”シリーズに、新たに血液、動物組織、植物組織、大腸菌、ウイルスなど様々なサンプルに対応し、かつ、核酸分離の各工程を大幅に自動化した装置をラインアップしました。装置は、処理数に応じてサンプルを最大12本セットできる“Auto12S”と24本セットできる“Auto24S”の2タイプがあります。

すでに、日本をはじめ、欧米、アジアからの受注が好調で、引き続き今後もグローバル市場における販売拡大に取り組んでまいります。

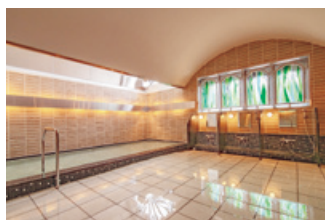
関係会社:(株)倉敷アイビースクエア

倉敷アイビースクエアの宿泊棟および 大浴場がリニューアルオープン

薦のからまる赤レンガのホテルとして有名な倉敷アイビースクエアは、昨年の大宴会場「アイビーエメラルドホール」新設に続き、宿泊棟(3、4号棟)および大浴場を本年2月にリニューアルオープンしました。



ファミリー向けゲストルーム



大浴場

今回リニューアルした宿泊棟は、室内空間を広げるとともに、お客様のニーズにきめ細かく対応できるよう、多様なゲストルーム構成や内装のグレードアップを行うとともに、岡山の温暖な気候をイメージした暖色や倉敷特産であるデニムのブルーなど倉敷らしさを表現した色調と当社創業時の明治時代に建てられた工場の趣が融合した魅力ある空間となっています。工場時代のノコギリ屋根を生かした天井が独特の雰囲気を感じさせるスタンダードツインルームや、洋室のベッドスペースに2台、畳の和室に2台の4ベッドでジャパニーズモダンの趣あるファミリー向けゲストルームなどがあります。また、大浴場は男女用ともにスペースを広げ、それぞれジェットバスを含め大小3つの浴槽があり、リラックスしながらご入浴いただけます。今回のリニューアルにより、より快適になった空間でお客様に寛ぎのひとときを提供してまいります。

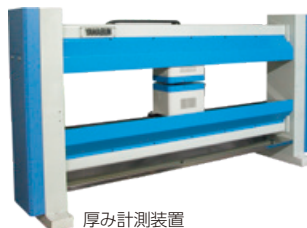
関係会社:(株)山文電気

厚み計測装置専門メーカー (株)山文電気が関係会社となりました。

クラボウは、プラスチックフィルムやシートなどの厚み計測装置専門メーカーである(株)山文電気の全株式を本年1月に取得し、完全子会社化しました。環境メカトロニクス事業部では、透明で薄いプラスチックフィルムやシートおよびその表面に施される多層のコーティング素材などの塗布厚みを非接触で高精度にオンライン計測できる赤外線方式の膜厚計測装置の開発・販売を行っており、食品分野や鉄鋼分野をはじめ、近年では光学フィルム、リチウムイオンバッテリー分野などで販売を拡大しております。(株)山文電気は、当社とは異なるX線方式、レーザー方式などを採用した厚み計測装置を手がけており、特に赤外線

方式では難しい不透明な素材や厚手素材の計測において高い技術力を有しています。

今回、(株)山文電気がグループ会社に加わったことで、両社の販路拡大や双方の保有技術を生かした新しい計測装置の開発・販売などのシナジー効果を発揮し、計測装置分野の事業基盤の強化と業容のさらなる拡大を図ってまいります。



厚み計測装置



(株)山文電気の概要

- 設立: 1984年4月3日
- 資本金: 1,000万円
- 所在地: 大阪府東大阪市



倉紡記念館は、昭和44年3月、
クラブハウの創立80周年の記念事業の一つとして
建設されました。
“歴史を顧みることが、未来への礎”
創業以来クラブハウに貫かれていた考えが
生んだ記念館です。

未来への礎として

倉紡記念館



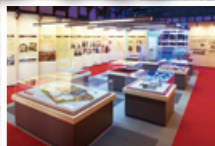
第1室 | 明治時代
1888~1912



第2室 | 大正時代
1912~1926



第3室 | 昭和時代(戦前・戦中)
1926~1945



第4室 | 昭和(戦後)~現代
1945~



第5室 | 年表コーナー

倉紡記念館

倉敷市本町7番1号 (JR倉敷駅より徒歩15分・倉敷アイビスクエア内)
TEL (086) 422-0011 ●公開時間 AM. 9:00~PM. 5:00



倉敷紡績株式会社

<https://www.kurabo.co.jp>

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日
 - (1) 定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日
 - (2) 中間配当金 毎年9月30日
- 公告の方法
電子公告の方法により行います。
公告掲載URL <https://www.kurabo.co.jp>
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。